

(参考) 環境影響の予測・評価結果

事業者は、環境影響評価書に記載した内容に従い、事業の進捗にあわせて事後調査手続を実施しています。

予測・評価の見直しを行った環境項目

地中拡幅部の変更に伴い、環境影響評価項目のうち、予測・評価の見直しを行った項目は、水循環と廃棄物等です。

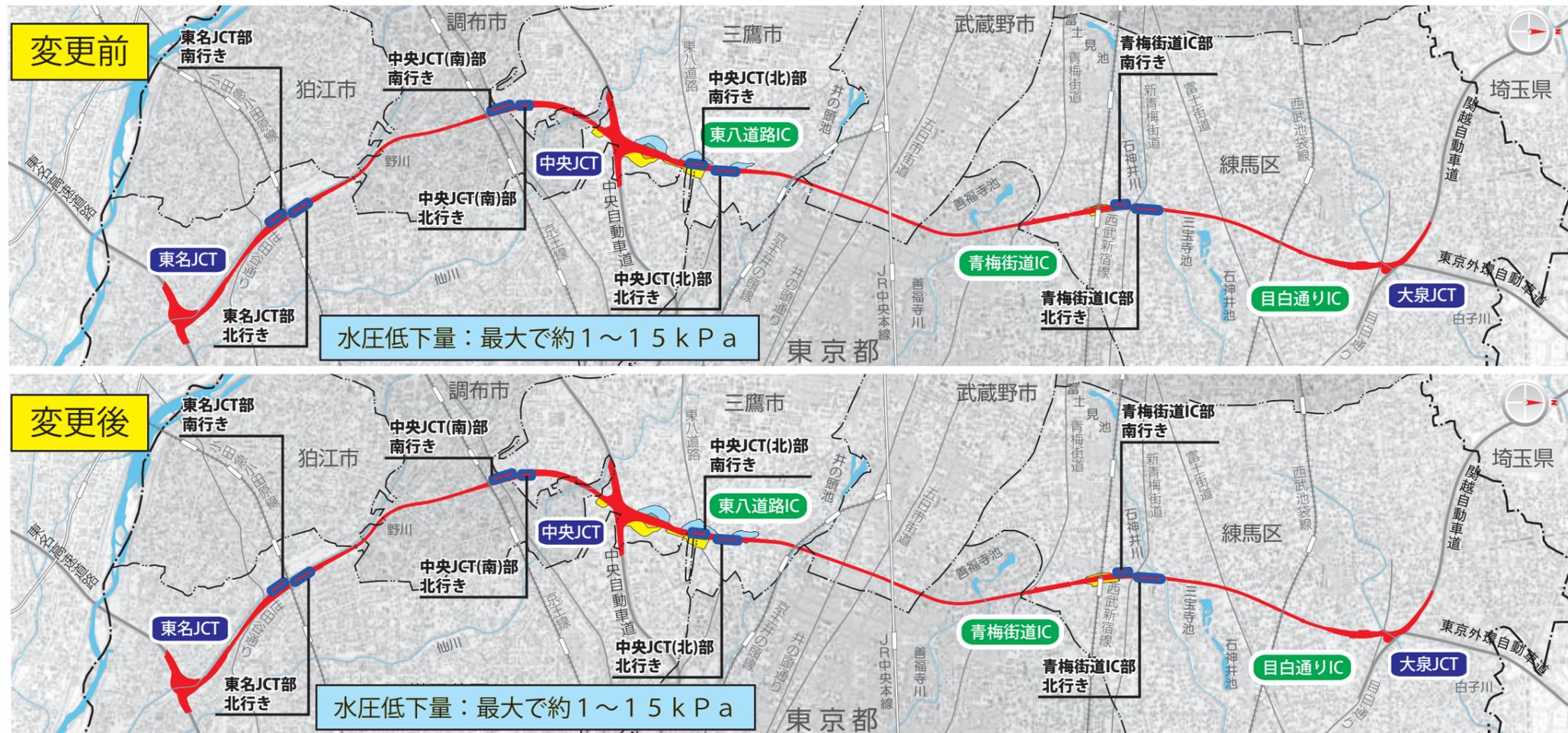
水循環

■地下水の水位

地中拡幅部の変更に伴い、三次元浸透流解析による、予測・評価を行った結果、深層地下水の水圧の低下量は約1 kPa～15 kPaとわずかで、水圧低下の影響の範囲内に深層地下水を利用している井戸が存在しないことから、深層地下水は保全されると予測されます。

なお、深層地下水の存在する上総層群中の粘性土は、固結～半固結状の非常に硬いシルト層（軟岩）であり、深層地下水の水圧低下量は小さいため、地盤沈下はほとんど生じないと考えられます。

■深層地下水圧の影響分布図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。（承認番号 平26関復、第35号）」 IC名、JCT名は仮称（開通区間は除く）

■地下水の水質

- 計画路線周辺の上総層群中の地層の一部では、長年に渡って空気に触れた場合に酸性化する場合がある地盤が存在しますが、硫化物の含有量が少ないことから急激に酸性化したり、ガスが発生する地盤はありませんでした。
- 地中拡幅部の施工により掘削した地盤面は、掘削した直後にコンクリート吹付け等を行うため、地盤及び地下水が長年に渡り空気に触れることはなく、酸性化しないことから、地下水の水質は保全されると予測されます。

■廃棄物等

- 地中拡幅部の変更に伴い、建設副産物のうち建設発生土が約5万m³増加すると予測されます。このため、本事業の実施により建設発生土は約979万m³発生すると予測されます。
- 発生する建設発生土については、関係法令等に基づき、埋立用の材料及び他事業の盛土材として、できる限り再利用に努めることとします。

用語の説明

- 深層地下水
浅い位置の立川礫層や武蔵野礫層より深い位置の上総層群中の砂層及び砂礫層中に存在する地下水です。
- kPa (キロパスカル)
圧力・応力の単位。1パスカルは、1平方メートル (m²) の面積につき1ニュートン (N) の力が作用する圧力または応力を示しています。1キロパスカル (kPa) は水深約10cmの地点にかかる水圧分に相当します。